

■周布政之助 藩政家。長州藩士で尊攘改革派の指導者であったが、青年志士の暴発を抑えきれず、自刃した。

すふまさのすけ

シホ 来日 1823 = 長門国萩で下級藩士の五男に生まれ、同年、父ついで兄を失い、家督を継ぐ。

村田氏出の母に養育され、村田清風の影響を受ける。幼年より書を好み、

富籤流行 1830 = 7歳：藩校{明倫館}に入って、習字・読書を学び、

鼠小僧磔 1832 = 9歳：ついで、中国の古典を修め、剣術・槍術を習う。

秀才の名が高く、学問に熱心に励む一方、

大塩平八郎乱 1837 = 14歳：北条瀬兵衛に謀り、有志を結集して、時事問題を討論する研究会{嚶鳴社}を組織、

勸進帳初演 1840 = 17歳：入館を許され、

天保改革始 1841 = 18歳：

順天堂始 1843 = 20歳：学費も支給される居寮生となる。村田清風による天保の藩政改革に関わって、その影響を強く受け、

阿部正弘首座 1845 = 22歳：

1847 = 24歳：{明倫館}を出て、蔵元検使暫役に登用され、

1848 = 25歳：{明倫館}の拡張改築に従事、

北斎没 1849 = 26歳：新{明倫館}が完成すると、学生を監督する都議になるが、

国定忠治磔 1850 = 27歳：地方右筆・唐船方添役となって、政治の場に戻り、外国からの攻撃に備える手当方掛も務め、

尊徳報徳論 1851 = 28歳：機密文書や政治人事を取扱う江戸右筆役の見習いとなって、藩政の中枢に加わり、

ペリー来航 1853 = 30歳：*ペリー来航によって政情騒然となると、尊王攘夷を強く主張。天保改革後の藩政の主導権をめぐる保守俗論派の坪井九右衛門・棕梨藤太派と対立。その罷免後、政務役に就任して藩の中枢に立つ。

開国開港 1854 = 31歳：翌年にかけて、財政整理を眼目とする安政改革の中心人物ともなるが、

安政大地震 1855 = 32歳：棕梨派の巻き返しとともに、謹慎を命じられる。その間、読書や詩作にふける。

蕃書調所 1857 = 34歳：謹慎を解かれ、先大津代官に任じられると、捕鯨專業者のために研究して発展を図り、江戸方用所役兼地方所帯方に任じられて、藩政の中枢に復帰し、

五ヶ国条約 1858 = 35歳：政務役となり、再び、藩政の主導権を握ると、第二次安政改革に着手、

安政の大獄 1859 = 36歳：*藩主毛利敬親の参勤交代に従って、江戸に出ると、江戸方藩府から次々と改革の指示を出し、軍政・民政のほか、洋学を重視の学制改革を行って、大村益次郎を登用する一方、吉田松陰と門下の輕拳を戒めて、<安政の大獄>の影響を回避するなどするものの、安藤信正政権の指導力の無さを見て、

桜田門外変 1860 = 37歳：

遣欧使節 1861 = 38歳：藩主が長井雅楽の「航海遠略策」を掲げて公武合体策を推進するのを阻止しようとして、謹慎処分となる。

生麦事件 1862 = 39歳：「航海遠略策」を朝廷から批判され、長井雅楽が辞職後、謹慎を解かれ、藩論の尊皇攘夷への転換に主導的役割を果たし、挙国一致をめざして、朝廷・幕府・諸藩の間の周旋に努めるが、

8月18日政変 1863 = 40歳：この年、長井雅楽が自刃。

禁門の変 1864 = 41歳：*彼のもとで成長した高杉晋作・久坂玄瑞らの討幕派が上洛を決行して<禁門の変>となり、彼ら青年志士を抑える立場に立っていたため、時勢を憂いて自刃した。